

麴町中学校 同窓会報

そてつ

NO. 15
1978
5.20



そてつをたずねて①

同窓会報「そてつ」にちなんで新聞形式となった13号より、第一面には母校の「そてつ」の写真を掲載してまいりましたが、今回より母校だけでなく、日本各地の「そてつ」を紹介します。

第一回目は新宿御苑を訪ねてみました。御苑は、信州高遠の藩主内藤氏が天正十八年に徳川家康よりこの地を拝領し、新宿地区を治めた頃に始まります。現在の大本戸門を入ったところの庭が下屋敷のあったところで、昔は、玉川園と呼ばれ江戸名園の一つでした。明治五年官有地となり、勸農寮新宿出張所を設けて、果樹を始め花、蔬菜、製茶、養蚕、缶詰の研究までしていました。更に明治十二年宮内省に移管され新宿植物御苑と

云われるようになり、明治の中頃から我国の農業及び園芸の発達に大きな役割をはたしました。特に欧米の花や野菜、果樹の栽培研究に力を入れ、新しい近代農業の基礎を作りしました。御苑が我国の園芸の発祥の地と云われるのもそのためなのです。

明治三十四年から大改造が計画され、御苑は新しい宮廷の庭として生まれかわり、五年後の明治三十九年に現在のような庭園となりました。この計画にはベルサイユの園芸学校の教授アンリ・マルチネーが参加し、和洋折衷式の当時としては極めて斬新な考え方の庭園です。
(御苑の歴史については、新宿御苑保存協会発行の小冊子「新宿御苑」より、抜粋させていただきます。)

あいさつ

前名誉会長(前母校々長)

高橋幸三郎

同窓会の皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申しあげます。本校創立三十周年記念事業については、村上会長はじめ役員、幹事の方々の温かいご協力をいただき、深く感謝しております。次に、同窓会報をおかりして学校の近況、特に皆さまの後輩である在校生諸君の活躍のようすをお

知らせし、あいさつにかえさせていただきます。今年度の主要な学校行事は、三十周年記念という歴史的な意義をになつており、全校生徒もまた一体となつて、この祝福すべき運命的な出会いに心をこめ、各種行事にとりくんでいる。記念体育祭(五月二十九日)は

あいさつ

会長(第二期生)

村上正敏

昭和五十二年は母校、麴町中学の創立三十周年に当り、これを慶祝する一連の行事がいづれも盛会裡に終了いたしました。

その記念行事で活気に溢れていた、母校校庭も再び静けさを取り戻し、落ち着いた、たたずまいの中で総会を迎えようとしております。一口に三十年といつても、その歴史は平時に比べ、戦後の混乱から、今日まで、社会的にも政治的にも実に変遷の多い歳月であった

昭和五十二年は母校、麴町中学の創立三十周年に当り、これを慶祝する一連の行事がいづれも盛会裡に終了いたしました。その記念行事で活気に溢れていた、母校校庭も再び静けさを取り戻し、落ち着いた、たたずまいの中で総会を迎えようとしております。一口に三十年といつても、その歴史は平時に比べ、戦後の混乱から、今日まで、社会的にも政治的にも実に変遷の多い歳月であった

この間、卒業期も二十九期を数え、同窓生も一万三千三百余人に達しています。教育熱心な恩師、気品ある教育環境のもとで学び得た麴町中学の

出場した以上勝たせてあげたいというのが、私のいつわらざる気持ちである。それは単に勝つことでは無い。練習の苦労が報いられ、自信をつけ、誇りをもち、感激にひたることができるからである。区(区)の連合陸上競技大会(十月六日)では、本校のすぐれた伝統をうけつぎ、麴町中の貫録を示してくれた。最後に飾るリレーも一位が二、二位が三、三位が一、各学年男女とも入賞をとげたのである。一般生徒の応援も、選手諸君の動作や態度もまことに立派であった。三年生は、国立競技場で活躍した中学時代最後の思い出を、いつまでも胸にいだきながら本校を巣立つていくに違いない。三十周年記念事業の一つである生徒会募集の歌も、生徒の作詩、作曲の入選が決まり、「私たちの未来に」の歌が、全校生徒の愛唱歌として歌われる日も間近。十一月三日に行われる記念文化

伝統を糧として、今や同窓生の活躍分野は日本国内にとどまらず、世界的規模に達してきております。パリでロンドンで、ニューヨークで、やあ、久しぶりだね。と声をかけ合っている姿は、やはり麴町中学卒業生ならではの風景と微笑まずにはおられません。その同窓会も母校に二年遅れ、昭和五十四年に創立三十周年を迎えることになりました。編集委員諸君の努力、幹事諸君の私事を犠牲にした奉仕によって本紙「そてつ」の発行をはじめ同窓会活動が切々と続けられておりますが、母校の隆々たる発展に比べ、同窓会の現状は会の目的に照らし決して満足できる状態とは云えませんが、

えませんが、しかし、名簿作成委員会を編成して、いざ着手となると、同窓生の半数以上が住所不明住所変更によって、確認文書が返戻されてくる実態にあることが判りました。中学卒業後、高校、大学として社会人となり、家庭人となるなど、人生の中でも最も変化の多い年代に同窓生の多くが置かれていた事情も理解できます。また、中堅の社会人として、充実した忙がしい日々を送っていることも予測されますし、大変結構なことを思います。しかし、完全な同窓会名簿の存在は、同窓会活動の基盤であると

祭も、「未来への飛躍」というテーマを生徒会で設定し、その準備にとりくんでいる。創立三十周年にふさわしく、過去の栄光をにないながら、若さあふれるたくましい力で、人間性豊かな未来世界を築きあげていくよう折つてやまな

ともに会員相互にとつて、何ものにも優る財産であります。この財産をみんなで育て、守っていくようではありませんか。そのためには、住所、勤務先、結婚等で姓が変わるなどの事情が生じた時、一枚のハガキを同窓会事務局へ是非送つて下さい。幹事会では、昭和五十四年度総会を同窓会発展の礎を築く重要な時期と捉え、財政確立をはじめ、懸案解決に向つて着々準備をすすめております。会員みんなで協力して麴町中学校同窓会を盛りたてて行くようではありませんか。

同窓会報「そてつ」にちなんで新聞形式となった13号より、第一面には母校の「そてつ」の写真を掲載してまいりましたが、今回より母校だけでなく、日本各地の「そてつ」を紹介します。第一回目は新宿御苑を訪ねてみました。御苑は、信州高遠の藩主内藤氏が天正十八年に徳川家康よりこの地を拝領し、新宿地区を治めた頃に始まります。現在の大本戸門を入ったところの庭が下屋敷のあったところで、昔は、玉川園と呼ばれ江戸名園の一つでした。明治五年官有地となり、勸農寮新宿出張所を設けて、果樹を始め花、蔬菜、製茶、養蚕、缶詰の研究までしていました。更に明治十二年宮内省に移管され新宿植物御苑と

〈特別企画〉座談会

麴町中の今と昔

出席者

○大村起代子(二期)

(旧姓野路)

大村 敦子(二十六期)

大村 俊子(母校三年在)

○黒川 明夫(二期)

黒川 英夫(母校一年在)

○田中 敏夫(母校教諭)

○佐藤 務(幹事長・十九期)

井上 千晶(副編集長・

二十九期)

○長沼利夫(編集長

書記 福原功子(企画担当

二十九期)

○麴町中学創立三十周年を迎え、

「麴町中の今と昔」と題する座談

会を催し、親子で卒業生もしくは

在学生の方々を中心に集まってい

ただき、学校生活を通して、三十

年の歴史の変遷を浮き彫りにして

みました。

母校の昔の様子は

司会 それでは、麴町中の昔の
様子からお話してください。

大村(2) 最初は間借りで現在の
永田町小学校を使用し、途中から
番町小学校に移りました。

当時、小学校と中学校が同じ所
で、また、その頃家を焼け出され
た方々が校舎の一角で生活してい
て、全部ごちゃ混ぜの状態でした。
今はすばらしいって黒川さんと

お話ししていたのですが、とにか
く昔が貧相でいやだったなあと思
っています。

司会 当時、そういう風にごち
やごちやして、変な感じはあ
りませんでしたか。

大村(2) それが当り前だったん
です。

佐藤 その頃の写真を見ますと
服装がまちまちなんです、制服
はなかったんですか。

大村(2) 全然ないです。そんな
の考える余裕がなく、お弁当を持
って来られるかどうか問題で、
「お弁当忘れちゃった。」と言っ
てお弁当を持たずに空箱を持って
たり、また、持ってきてお中は、
お芋がいっぱいだったり。

とにかく、お弁当を持って来る
だけで幸福でした。

司会 黒川さん、当時の教科書
なんかはどうでしたか。

黒川(2) 覚えていませんが、教
科書は一応ちゃんとしていたと思
います。ただ、私の印象に残って
いるのは「日本憲法」という本
で、それまではそういう話がな
くて、小さな本でした。

ノートはなくて、便せん裏な
んかを使ったりしました。

司会 当時の先生の服装はどう
でしたか。

大村(2) みんな同じでしたから。
先生の服装が悪いとか、私達のが
悪いとか言うのでなくて、みんな

着られていれば幸福でした。それ
でも何とも思わなかったんです。

黒川(2) 卒業アルバムを見ても
ていますが、幼年学校などで使
ったカーキ色の詰めえりと言うか
軍服の様な感じでした。そういう
服装の方がかなりいたように思
います。

司会 では授業中はどうでした
か。恐いとか。

大村(2) あまりそういう感じは
なかったですね。

司会 宿題はありましたか。

大村(2) もちろんありましたが
今程ではなかったように思います。

司会 特に思い出に残ったよう
な事はございますか。

大村(2) その頃、旅行で大島に
行くことになってたんですが、台
風が来てまして、学校としては中
止にするという状態でした。でも
みんな行きたいので、校長先生と

談判してやつと行くことになっ
たんです。
海は台風のために大変なわけで
船の中ではみんな気持ち悪くして
「ケロ船」なんて言ったりしたん
ですが、それでもみんな行きたか
ったんです。それが一番忘れられ
ないですね。

黒川(2) そうですね、永田町に
行った時は、一つの階を借りまし
てコーナりのところが踊り場にな
ってましてね、小学生がいるので
校庭は使えず、そこが屋内運動場
になっていて休み時間になると、
みんな集まって、そこで卓球を
したり話をしたりしてました。

番町の時にも、屋上は焼け出さ
れた方々の物置とか洗たく物を干
すのに使ってまして、校庭は小学
生が使っていたので、結局、廊下
で遊びまして、そういうのが印象
に残ってますね。

大村(2) 永田町から番町に移動
する時に、蟻の行列の様にみんな
が椅子とか、机とかを持っていっ
たんです。それも忘れられないで
すね。

黒川(2) ちょうど、二年から三
年になる時でしたね。

司会 母校が創立三十周年を迎
えたわけですか、それについては
どんな感じですか。

大村(2) この校舎から卒業して
いけば、感慨深くなったりするの
でしょうが、今はりっぱになりす
ぎて全然違う学校みたいです。

麴町中に対する誇りは持ってい
ますが、なつかしさがありません。
焼跡の学校しか思い出せません。

黒川(2) 五期位の人が最初にこ
の校舎を使っただけじゃないですか。



大島航路(番町小学校時代)

ただ、ここが以前、安田さんの
御家敷だったという事は記憶に
残っています。特に大きな門が印
象に残っていますね。

司会 お子さんを御覧になって
昔と比べて違うなあと感じるとこ
ろではございますか。

大村(2) よく勉強しているんじ
やないですか。(笑)

佐藤 授業時間は今のほうが多い
ですかね。

黒川(2) 倍くらい多いんじゃない
ですか。教科書も厚いし、科目
とかカリキュラムとかも多くて、
大変ですね。

司会 創立三十周年を迎えた麴
町中について、在校生としてはど
う思いますか。

大村(2) 学校生活で、お母さん
の話の聞いていて、昔は自分達
で話し合い談判して取り入れても
らえるように、みんな立ち向っ
ていたようですが、今は先生にま
かせきりでつまらないですね。

黒川(2) 体育祭なんか校庭が狭
くて、学校でできなかったのは残
念です。

遊びについて

司会 それでは遊びについてお
聞きますが、昔はどんなことを
していましたか。

大村(2) 今から考えると幼いと
か子供だなあと思うんですが、職
員室の隣りにあった卓球台をど
かして、自分の背の高さ位のゴム段
を、回りに男の子がいろいろい
いが気にせず、スカートめくっ
てやっていた。本当に子供だ
ったんだなあと思っています。

今の中学生はすく大人びてい
るという感じですね。

佐藤 今はどんな遊びをしてい
ますか。

大村(2) 女子はあばれるんだっ
たら鬼ごっことか。

司会 黒川さんが男の子として
昔やった遊びというのはどんなこ
とですか。

黒川(2) 卓球とか野球を割合さ
かにやりましたね。クラス対抗
の野球なんかも結構やりました。

当時、グラウンドがなく、竹橋
の旧近衛師団の赤レンガの建物の
裏に大きな空地でよくやりました
に記憶しています。

大村(2) 赤坂離宮の中でもやっ
ていたようですね。

黒川(2) ええ、やりました。

昭和53年度同窓会総会
6月18日(日)午後1時より
母校にて開催します

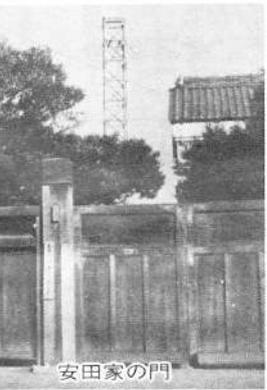
卒業生として

司会 卒業なさってまだ年月が
経ていないのですが高校に入学し
て他の中学生といっしょになっ
てなにか違和感みたいなものはあり
ましたか。

黒川(2) ええ、バットは薪をけ
ずったのを使ったりしてね。
司会 今の男の子はどんな遊び
をしていますか。

黒川(2) 野球とかキャッチボー
ルです。

大村26 やつぱり程度が高かったんだなと思いましたが、ま



安田家の門

で、私達はブレザーで校則はきびしかったんですが、今と比べると

黒川(2) くつ下のワンポイント

行った時、冷かされたのを覚えて

自然でいいんじゃないですか。せ

生徒諸君、PTAの方々、学校職

井上29 話をすると、黒川(2)は

色々を階層の方が来ているわけ

大村26 別にセーラー服が嫌

黒川(2) くつ下で真っ白とい

三年間、別に意識しない人も

黒川(2) 中三の時、大学の心理

阿蘇先生が編集をなさったん

大村26 女の子はもうパーマを

公立と言っても、靴から始ま

大村(2) 私の場合、ワンポ

黒川(2) つき合っている人は

大村(2) 結構いっしょに帰

大村(2) 私の場合、思い出

司会 先生が胸町にいらして



服装について

司会 最近、歩いてましてリ

黒川(2) 今の生徒会の方で、



連合陸上競技会

黒川(2) つき合っている人は

大村(2) 時代の流れがあるで

田中先生に聞く

司会 今年、三十周年という

デザインから印刷まで (例) 名刺 100枚 → ¥500 2日間上り

デザインから印刷まで (例) 名刺 100枚 → ¥500 2日間上り ハガキ 100枚 → ¥1200 2日間上り K. K. 参友社 東京都千代田区永田町2-1-1 TEL 581-3111 内 6175

あるといいなあという気がしました。

田中 七年前と今とを比べると七年前の生徒諸君は、それぞれ中学生という立場ではあるけれど、自分の進むべき道を考え、それに向かっていったようなのですが、現在の生徒を見ると、その傾向が多少薄れて、自分の進むべき道は誰かが決めてくれ、という感じなんです。そういう意味では、元気が欠けるといえるか、寂しい気がします。

田中 七年前と今とを比べると七年前の生徒諸君は、それぞれ中学生という立場ではあるけれど、自分の進むべき道を考え、それに向かっていったようなのですが、現在の生徒を見ると、その傾向が多少薄れて、自分の進むべき道は誰かが決めてくれ、という感じなんです。そういう意味では、元気が欠けるといえるか、寂しい気がします。



司会 三十周年の行事で、苦

田中 私の場合、同窓会担当だったので、佐藤さん中心でみんなをよくやってくれましたので、これと言って別にないです。

佐藤 今、原稿を作っている最中なんですけど、一人でも多くの人の住所を確認して、できる限りのことをしてやっていきたいと思っています。

まあ、今までは学校側とはこれ程のつながりがなかったので、これからは在校生とのつながりを重視して、学校と密接な関係を作らなければと思っています。

話を聞かせていただいて楽しかったです。



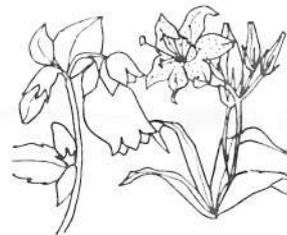
司会 もう時間が来てしまいましたが、楽しんでお過ごしください。

この座談会は、昭和五十二年二月十日、母校会議室で行なわれたのを、編集したものです。

座談会の出席者はみな、活々とした会話で、それぞれ違った意味で母校に愛情を持っているのを知り、うれしく思いました。

二期の黒川さん、大村さんは、昔の事を思い出深く、楽しそうに話してくださったのは印象に残りました。

そして、麹町中を通して、同窓生としての親子のつながりを見てすばらしいことだと感じ、充実した一日でした。



母校創立三十周年記念

記念事業レポート

三十周年記念事業も無事終了しここに会員の皆様は、その様子をお知らせいたします。

記念事業を終えて

教訓 田中敏夫
昭和二十二年五月に創立された本校は、本年で三十周年を迎えたことになりました。

被服室復元整備(今までの場所から校庭に面したところに移り、明るい教室で面目一新の感あり)会議室整備(床の改装及び机等の整備が行われ、会議室らしくなりました)校舎外壁、内部の塗装(用務主事さんたちのお骨折りで、ごんなんにも変わるものかと驚きました)その他

五月二十九日(日)、外濠公園運動場で行われました。学年のわくをはずし、学年を通じたクラス単位の対抗で、それぞれの特定の色があるので、八つの色が交錯し、競技の面白さだけでなく、見た目にも非常にきれいでした。

十一月二日(水)、世界的なプロスキーヤー、三浦雄一郎氏を講師として、「冒険と夢」について、富士山、エベレスト滑降など、血わき肉おどる

お話を伺いました。
十一月三日(祝)、在校生だけでなく、同窓会、PTAの参加も含め、盛大に行われました。「未来への飛躍」という生徒会のテーマのもと、例年になく卒業生、父母、小学生の見学者が多く、同窓会からは機関誌「そてつ」の名の由来などの発表があり、在校生も関心をもって見入っていました。

十一月五日(土)、第二体育館で、区長、歴代の校長先生等お出でになり、生徒の作詞・作曲による「私たちの未来に」も歌われ、三十周年記念事業の最後を飾るにふさわしい式典でした。

「旧職員の思い出」同窓会等の内容が、写真・グラフ・表など盛り沢山に使われ、貴重な資料を含めて非常に見やすいものになりました。残部が多少ありますので、希望の方は係の阿蘇先生まで申し込んでください。

我が母校麹町中学も創立三十周年というところで、十一月三日に行なわれた今年最後の行事「文化祭」も、例年以上に盛り上ったものとなった。

「同窓会コーナー」なるものを設けさせていただき、文化祭に参加したわけである。なにしろ、最終的に確保できた場所が同窓会室のみであったため、資料の展示程度で勢いいっぱいであった。そのスペースを有効にと、壁面に同窓会々員の方々の詩、イラストなどの作品をはり、同窓会の紹介を掲げ、後にはがすの手に取る位だった。

また、旧職員の小暮青風先生(現在日展会員)の書や、お写真なども拝借し、展示をさせていただくこともできた。

三階ホールのほんの一角だった。見やすいためか結構在校生の目をひいた様もあり、私達幹事としては、貴重な経験だった。文化祭などを通じて、在校生と卒業生のつながりをはかり、母校のクラブ活動を援助していきたいと思う。

同窓会創立三十周年に向けて

第一期生が昭和二十四年に卒業して、来年には同窓会発足三十周年を迎えるわけですが、現在の麹町中学校同窓会はかつて望ましい姿とは言えません。それは、昭和四十六年に同窓会名簿が発行されて以来、名簿が補足されていない事、同窓会総会が有名無実の総会になっているという事からも分かります。同窓会運営の任にある私が、この責任を感じながら、三十周年を将来の飛躍の礎として、麹町中学校同窓会として魅力ある会に発展させるためには、会員各位の御協力を強くお願いする次第です。

三十周年記念事業として、名簿発行を最大の柱として展開し、母校創立三十周年事業の成功に恥ないよう幹事会一同努力してまいり所存です。

委員 井上千晶
今年度、はじめて編集に携わり編集という仕事の難しさ、楽しさを味わい、これを機会に引退ののだと決めたのですが、同窓会創立三十周年記念誌を発行するからという幹事長の一言に、私の夢は海の藻屑と化してしまいました。

決定した以上は全力投球で、編集に専念したいと思っております。その編集にあたっては、会員の皆様様の御協力が必要でございますので、その節には、何とぞよろしくお願い申し上げます。

現在、編集部では記念誌発行の資料となるべく、「そてつ」の前身の「会報」一号また二号の「三、五号を捜してあります。お心当りの方は、御面倒とは存じますが、同窓会内編集部まで御一報くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

委員 李瑞豊
同窓会創立三十周年に当たり、その記念として、会員名簿を作るのことで、私も非力ながらこの企画に携わらせていただくことになりました。しかし、このような仕事に不慣れかつ不向きな私であるため仕事をどのように進めるべきか皆目見当がつかず、その上自分がそのような状態なので委員会幹事諸君の活動状況も芳しいはず

お出でになり、生徒の作詞・作曲による「私たちの未来に」も歌われ、三十周年記念事業の最後を飾るにふさわしい式典でした。

同窓会の活動報告

昭和五十二年同窓会総会は、去る六月十九日、母校合同教室にて開会し、同窓会の会計報告や活動報告を行ない、終了後、先生を中心とした大学生以上の懇親会は母校二階会議室で、高校生を中心とした懇親会は、第一体育館で行なわれました。

懇親会(27期〜29期)

第一体育館のドアを開けると、懐かしい顔が飛びこんでくる。去る六月十九日、魏町中学校同窓会懇親会が第一体育館にて華々しく(?)行なわれた。出席者はほぼ百名、大半を新卒生が占め、会場は楽しげな雰囲気であふれていた。会場を見渡すと、中央に卓球台の即席テーブル、壁ぎわには幹事の

懇親会(1期〜26期)

先生方を中心とした一期から、十六期までの懇親会は、総会当日(昨年六月十九日)母校二階の会議室で催されました。学校側からは、高橋校長先生をはじめ、阿蘇、飯塚、梅沢、大塚、重野、関根、田中、花村、堀田、宗村諸先生、他中等等にお変りになった先生においては、有元初代校長、小原、渥美、大久保諸先生卒業生では、二十期江渡さん、同窓会より、村上会長以下、十数名が出席しました。会は、村上会長のあいさつ、高橋校長のあいさつ、そして各先生

が必死に働いているアイスクリームコーナー、正面奥に暇そうなお古本屋などが立ち並んでいる。こうしてみると、立派な会場らしく見え、我々幹事の努力の成果だと一人で満悦していた。

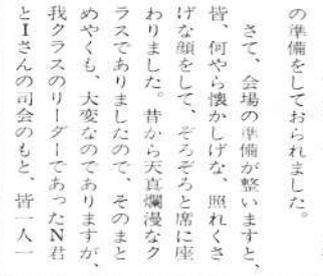
司会者をおおせつかりながら、マイクを置き去りに遊び歩いていた私は、さっそく仲間と話を花を咲かせた。卒業後間もないこともあり、まだ懐かしさよりも友達同志の気安さが存在していて、非常になごやかな気分だった。ただ残念なのは、やはりお忙しのだろうか。一年、二年先輩の方々の姿がとてまもなく、何か物足りなく思えてしまった。

の自己紹介、なごやかな雰囲気のうち進行し、有元初代校長先生が、昨年、京都大学より理学博士を授与されたのをお祝いして、同窓生を代表し、村上会長より、記念品をお渡ししました。それから、懇談となり昔の話、今の事と話を花を咲かせました。また、同窓会内で魔術師の異名をとる柳井君が、トランプによるマジックを披露し、会場を湧かせた。なごやかな雰囲気のうち一日を過ぎました。



最近の懇親会においては悲しいかな同窓生の出席が少なく、場の盛り上がり欠けているのが目立ちます。幹事会としても事態を深

ないというので、四苦八苦して十数人集め、男女別に熱戦がくり広げられた。日頃おしとやかな(?)彼女らが闘志をむきだしにする姿はなかなかの見物だったと思う。勝利者第三位までにそれぞれ勝利者賞をさしあげたが、自分の腕で獲得した賞品を手に、皆嬉しそうだった。



刻に受けとめていますが、こればかりは会員の皆様の御協力が必要で、総会についての御意見、御希望がございましたら、母校同窓会まで、御連絡くださいますようお願い申し上げます。

委員長の閉会のあいさつ。そして、「さよなら、元気でね」「また会おうね」という言葉を残し、今年の懇親会も幕を閉じた。幹事の皆様方、鬼が笑う来年の懇親会目指して、がんばりましょう。

クニマス会だより

28期 F組

昨年9月18日わが28期3年F組のクラス会がありました。クラス会委員にお電話した所「女子は全員くるよ」と言われましたので、はりきって(ついでに遅刻もして)意気揚々と校内に入ったのですが、ナン

ト、女子は5、6人しか来ていないのです。私、あせつて中にまだいるのてしよ?と問い正したのですが、

「これだけヨ。ガーン、結果的に男子17名、女子7名というさびしいものでした。別れてから一年半。相手の今の状態もはつきりせず、共通した話題を見つけないで、苦労しているの(本当)私の今疑っているアニメのお話をしたら、誰も乗ってくれない話かとぞれてしまいうのも無理ないです。現在の自己紹介の時も何を言うべきなのかすまらまったくわからなかったのです。

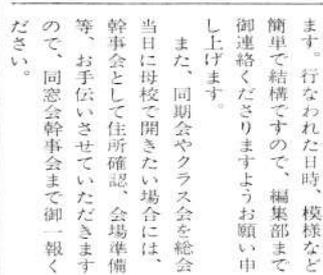
29期 G組

銀杏並木の新緑が美しく生え始めた五月、第二十九期卒業の旧三年G組のクラス会が開かれました。定期に校門をくぐると、懐しい、あの奇々怪々としておりました男子諸君が、微妙な面持ちで、田担任の飯塚先生とお話ししておりました。おや、女子の姿が見えな

人、近況報告をはじめました。非常に生徒数の多い学校や、部活動を始めた人、学級委員になって、活躍している人など、いろいろありましたが、皆一様に、はりきって高校生活をスタートしたようでありました。皆の報告に一々首をふり、熱心に聞いておられた、我旧G組の母親的存在であられた、飯塚先生のお顔が印象的でした。



さて、全員の報告も終わり、二人は皆、校庭に出て遊ぶという事になりました。魏町に在学中は禁じられていた馬車に執念



さて、全員の報告も終わり、二人は皆、校庭に出て遊ぶという事になりました。魏町に在学中は禁じられていた馬車に執念

を燃やし何度か先生方に注意され、また、お別れ会では、皆で手つなぎ鬼をして、楽しんだ覚えがあります。その習性からか、その後は野球と、バレーボールをして、楽しんでいたのであります。こうして久しぶりに皆と顔を会わせた旧G組のクラス会も、名残り惜しげに幕を閉じました。(福原記)

会場は、担任の秀平先生のご都合のこともあったのでしょうか、学校の調理室でした。(あまりいい環境とは言えませんでした。)コーヒを飲みつつ、となりに座わっている元友人と話をしていました。ス会は、知らぬ間に終わった。確実に終わった時、女子の数はさらに、一、二人減っていました。

同日に母校で開きたい場合には、幹事会として住所確認、会場準備等、お手伝いさせていただきますので、同窓会幹事会まで御一報ください。

同窓会編集部では、同期会やクラス会の情報を、お持ちしております。行なわれた日時、模様など簡単に結構ですので、編集部まで御連絡くださいますようお願い申し上げます。

恒例 サマーハイキング 毎夏の恒例行事となっているハイキングも今年度も八月十四日(日)に、その企画をもちました。そこで、前日十三日から、小雨の中を明日の食欲を信じて、昨年の記憶をたよりに、かえられな

母校のクラブ 活動報告

前回からはじまった母校のクラブ活動報告は好評を得、今回も三つの部を紹介しします。

この活動報告をするにあたって堀田、萩野両先生をはじめ、在校生の方々の積極的協力がありました。この紙面を借りまして編集部一同厚く御礼申し上げます。

バスケットボール部(男子)

伝統的にスマートな試合運びで、魏町中バスケットボール部もどうやら都内の強豪の一角に数えられるようになった。今後ますます練習に励み、念願の都優勝を一度は果たしたいと思っている。以下、現在までの戦績をご紹介します。

○過去の主な戦績(男子のみ)
46年度 総合体育大会 第一学区優勝
千代田区球技大会 優勝
新入大会 区優勝

同 第一学区3位
49年度 都選手権大会 区優勝
同 都16位
千代田区球技大会 優勝

51年度 千代田区球技大会 優勝
総合体育大会 第一学区優勝
総合体育大会 都3位

○今年度の戦績(男子のみ)
▼選手権大会
魏町中66—26練成中
魏町中43—42一橋中

魏町中63—28今川中 (区優勝)
魏町中34—27上石神井中
魏町中43—34駒沢中
保谷中59—47魏町中 (都16位)

▼新入大会

魏町中59—19練成中
魏町中72—28一橋中
魏町中26—24今川中 (区優勝)
魏町中61—38八王子横山中
魏町中47—38在原四中
石神井西中53—52魏町中 (都16位)

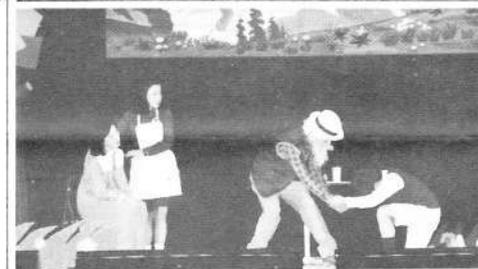
陸上

我が魏町中陸上競技部は、数十年の伝統があり、現在、部員は六十名を超えるものであり、週二回の練習に励んでおります。



魏町中学校の英語クラブは、創立以来続いているクラブの一つだが、最近では学年別に編成されて、一年四十数名、二年二十数名、三年二十数名の部員で続いている。創立三十周年記念文化祭では、一年は英語の歌「二年は英語劇「イノック・アーデ Enoch Arden」三年は掲示作品とスライド映写「外国編」を発表した。

▼昭和51年「アルプスの少女」
第二回
毎年、夏休みから二学期まで、二年英語部員は顧問の先生方の指導のもとで、連日のように放課後遅くまで練習に励んでいる。



▼定期人事異動
今年度は、高橋校長先生が退職され、六代校長として、千代田区立練成中学より、富田武忠校長先生が就任されました。
なお今年度の定期人事異動は、左記の通りです。

▼転出
高橋幸三郎(校長)退職
堀田正福(教諭)小金井市立南中へ
宗政剛郷(教諭)九段中へ
梅沢留蔵(教諭)一橋中へ
高橋 努(教諭)都立武蔵高へ
重野和夫(教諭)一橋中へ
沢海富保(教諭)都小平西高へ
後藤まつ(主事)退職
細谷りよ(主事)退職(主事)
武山芳郎(講師)都立台東商
吉田克彦(講師)在原四中へ
大羽正男(講師)上石神井中へ
大沢みどり(講師)練成中
神田小へ

▼転入
富田武忠(校長)
小室貫治(技術教諭)
安楽常三(英語教諭)
加藤重市(体育教諭)
黒田正人(英語教諭)
池田 温(音楽教諭)
愛田彰人(体育教諭)
小野和子(主事)
佐孝満里子(主事)
田中真木子(数学講師)
土屋 進(体育講師)
白仁あい子(特殊・音楽講師)

▼新幹事紹介
今年はいよいよ三十期生の幹事が、幹事会にはいりました。以下、紹介いたします。
▼三十期幹事
A組 宮沢行寿 山崎剛志
B組 石川素子 小松慶子
大田 剛 田口賢二
石川直子 榎 鏡子
C組 戸張勝之 片山 憲

▼編集後記
この会報を編集するにあたって多くの方々の御協力、御指導をいただきました。編集委員一同、心から厚く御礼申し上げます。
さてそれでは、編集委員を紹介いたします。
▼長沼利夫編集長、二十五期
別名「たたりキツネ」目細キツネ、R・レッドフォックス。
▼井上千晶副編集長、二十九期
すっこんど頭が良さそうな人。ついでに、責任感が強く頼りがいのある人。でも、どこかに空洞がポコッてあいて、時々落っこちる人。(結論)与えられた仕事はキチンとやり遂げる、感動的な人間をしているのだ。
▼牛山ゆきか調査部長、二十八期
ユニークで変人。きつくて、こわい人。でも根性は人一倍あってめげない人。
編集長をいびって遊び、レモンの輪切りはヘタだから嫌だと言いつつ、まな板をうまくみつける人。とにかく、断片的な人。

▼福原功子企画部長、二十九期
アタ名「鬼頭の子」ブタの血キヤリ！その他たくさん。
「会員の皆様へ」
決して彼女と一緒に道を歩いてはいけません。必ず人から馬鹿扱いされます。取扱注意！
▼石川聡子運動部長、二十九期
銀縁のメガネをかけている、知性的スポーツ・ウーマンなのだ。普通は、あまり話をしないのだが、特定多数の人とは半永久的に話をし続ける人。決して常識からはすれない学識経験者。
▼安藤真芸能部長、二十九期
ニヒルな感じの人。どんな女性でも、彼から見られると胸が高鳴り、身動き一つできなくなってしまう。別名「編集部の貴公子」ファンクラブに入会希望の方は今すぐ編集部までお手紙を。

魏町中学校同窓会報
「そてつ」第15号
発行日 昭和53年5月20日
発行日 魏町中学校同窓会(千代田区平河町二一五二)
印刷 株式会社 参友社(千代田区永田町二一・参議院議員会館内)